

Nara National Museum

# 奈良国立博物館 だより

第43号

平成14年 10・11・12月



桑木阮咸（揮撥絵部分） 正倉院宝物

平常展

仏教美術の名品  
～12月25日（水）  
本館・西新館

特別展

第54回  
正倉院展  
10月26日（土）～11月11日（月）  
東西新館

親と子のギャラリー

一遍聖絵  
絵巻をあじわう  
11月26日（火）～12月23日（月・祝）  
東新館

特別陳列

龍門文庫  
知られざる奈良の至宝  
11月26日（火）～12月23日（月・祝）  
西新館

特別展

# 第54回 正倉院展

十月二十六日(土)～十二月十二日(月) 東西新館

会期中無休

聖武天皇と光明皇后が精魂を傾けて  
造立した東大寺大仏は、天平勝宝四年(七  
五二)に完成しました。天皇の崩御後、皇  
后が天皇の遺愛品を大仏に献納したこ  
とが正倉院宝物のはじまりであり、また  
正倉院宝庫には大仏開眼会の関連品が  
数多く収蔵されていることからわかる  
ように、正倉院宝物は大仏と深い関連を  
有しています。大仏が開眼されて一二五  
〇年目にあたる今年、正倉院展には大仏  
開眼会の関連品をはじめ、新羅との交易

に関する品々、文書、遊戯具、調度品、仏  
具などが出陳されます。

大仏開眼会に関する宝物は、聖武天  
皇と光明皇后がかぶった御冠の残欠をは  
じめ、伎楽面、伎楽装束などの用具類が  
出陳されます。あわせて桑木阮咸、紫檀  
槽四絃琵琶など東大寺で用いられたと  
推定される楽器が出陳され、法要の盛大  
な様子をしのぶことができます。なお、大  
仏が開眼された年、七百人を越す新羅  
使節が来朝し大仏を拝しました。このお



夾纈羅几褥

り日本の貴族との間に交易が行われたよ  
うで、正倉院宝庫には新羅との交易に関  
連する品が見られます。今回、新羅交易  
品のうち色氎、墨、華嚴経論帙、白銅剪  
子、佐波理加盤と銅匙が出陳されます。  
遊戯具には双六局、双六筒、投壺と投壺  
矢が出陳されます。投壺は矢を壺の中に  
投げ入れる遊びで、古代中国における貴  
人の儀礼とされたものです。調度品には、  
転がっても灰がこぼれない球形の香炉の  
銅薫爐をはじめ、金銅火舎、密陀絵鳥獸  
文漆櫃が展示されます。仏具には鯨鬚  
金銀絵如意、柿柄塵尾、琥珀誦数、磁塔  
と白石塔など美しい装飾が施された品々  
が出陳されます。

このほか、奈良時代の歴史や政治を伝  
える貴重な文書類が展示され、宝物類と  
あわせて奈良時代の華やかな文化を私  
たちに伝えてくれます。



伎楽面 獅子



磁塔

## 《主な出陳作品》

御冠残欠、漆冠筒、珊瑚、彫石横笛、紫檀槽四絃琵琶、桑木阮咸、深緑  
絶阮咸袋、伎楽面、未造了沈香木画筆管、花氎、華嚴経論帙、墨、白銅  
剪子、佐波理加盤、新羅文書、銅匙、雑物出入継文、正倉院古文書正集  
第四十四卷(孝謙宣命ほか)、東南院古文書第五櫃第三卷(聖武天皇  
勅・奴婢帳目録・新羅江莊券ほか)、東大寺開田地図、双六局、双六筒、  
投壺、投壺矢、雲鳥飛仙背円鏡、銅薫爐、夾纈羅几褥、鯨鬚金銀絵如  
意、黒柿蘇芳染金銀絵如意箱、磁塔、白石塔、大方広仏華嚴経論卷第  
十七

# 一遍聖絵 絵巻をあじわう

十二月二十六日(火)～十二月二十三日(月・祝) 東新館



一遍聖絵(第六巻 第三段) 清浄光寺・歓喜光寺

国宝「一遍聖絵」は、鎌倉時代に時宗を開いた高僧、一遍上人の生涯を表すもので、「一遍上人絵伝」とも称され、伝記絵巻の名品として知られています。

清浄光寺・歓喜光寺の所蔵になる全十二巻は、六年間をかけて行われた保存修理が完成し、絵巻としては珍しい絹地に彩色して描かれた絵が、良好な状態と表現の鮮明さを回復しました。この機会に全巻を展示し、この絵巻のすばらしさを再認識する場としたいと思います。

当館と京都国立博物館では、それぞれ六巻ずつ寄託を受けているところから協力して、各巻の前半部を京都国立博物館で(十月九日～十一月十日)、後半部を当館でというように、二会場連続して開催します。特に当館での展示においては、絵巻の楽しみをこどもにもわかりやすく、またおとなにも従来より以上に深く味わえるように工夫しています。

## 特別陳列

# 龍門文庫 知られざる奈良の至宝

十二月二十六日(火)～十二月二十三日(月・祝) 西新館



龍門文庫

龍門文庫(財団法人阪本龍門文庫)は、実業家の阪本猷さんが蒐集した二千点を超える古典籍の善本を納めた文庫で、奈良吉野郡吉野町上市にあります。それらは昭和の初期に蒐集されたもので、古写経・古写本・古板本・古活字版などに分類され、内容も多岐にわたっています。しかし公開日が限られていることもあり、少数の研究者を除けば、それらのすぐれた善本を実際に目にした人は少なく、一般には文庫の存在さえも知られていないように思われます。生地(奈良県吉野郡龍門村)に因んで龍門文庫と命名した阪本さんは、故郷をこよなく愛していました。奈良県下にこのようなすぐれた文化

財があることを広く知っていただく機会として「龍門文庫展」を開催します。

《主な出陳作品》 雑宝藏経卷第二(光明皇后願経)、講讀大乘功德経(善光朱印経)、◎花鳥餘情(一条兼良自筆)、◎日本感靈録、◎万代和歌集(撰者自筆)、伊勢公卿勅使神宝絵図、長恨歌伝・琵琶行(清原宣賢筆)、平等院御経藏目錄、観世流謡本(嵯峨本)、日本書紀神代卷(慶長勅版)、住吉潮干図(住吉如慶筆)、源氏物語湖月抄(賀茂真淵自筆書入)、貞丈雑記(伊勢貞丈自筆)、好色代女、それから(夏目漱石自筆原稿)、玄鶴山房(芥川龍之介自筆原稿)

## 平常展 仏教美術の名品

本館 ～12月25日 (彫刻・考古)  
西新館 11月26日～12月25日 (工芸・考古)

本館・西新館では仏教美術の名品をジャンル別に展示します。特別展の開催中も、本館のみの観覧を希望される場合は平常展料金でご覧いただけます。



●木造八幡三神坐像(神功皇后像) 薬師寺

# 展 示 評

〈外からみる奈良博〉

## 特別展『観音のみてら石山寺』を鑑賞して

土井 通弘（滋賀県立琵琶湖文化館学芸主任）

奈良国立博物館で開催されている石山寺展を拝見して数日たったある日、奈良博の展覧会担当者から見学記の原稿依頼があった。その電話を頂戴した時まだ私自身が寝ぼけ眼であったせいもあるが、ある種の「窮屈さ」を感じた。今以てそのとき感じた窮屈さが何に起因するか判然としないのであるが、ひとつは私が石山寺の所在する滋賀県の博物館に勤務するからであり、もうひとつは同業者の展覧会を云々することはひいてはわが首をしめることにもなりかねないという本能的な畏れに原因しているのかも知れない。

滋賀県で文化財の仕事に従事する者にとつては、石山寺は常に何らかの関係でお世話になる重要な寺院であることから、石山寺に伝来する文化財については、不遜にも私自身ほとんど承知していると思ひ込んでいた。ところが秘仏本尊の胎内から飛鳥・白鳳期の金銅仏四体が奈良博の調査によって新たに発見され、今次の展覧会に出陳されるという事態が発生したのである。文化財の世界では言うまでもなく新たな発見は当然前であるにもかかわらず、ある意味で身近な寺院からの貴重な発見を前にして、喜ばしい反面、白状してしまえばうろたえてしまったのである。金銅仏発見のニュースは数日か前に情報として私の耳にも届いていたのであるが、ご本尊の胎内にどんな状態で、どのようなお姿の像が奉安されていたのか分からないままであつた。

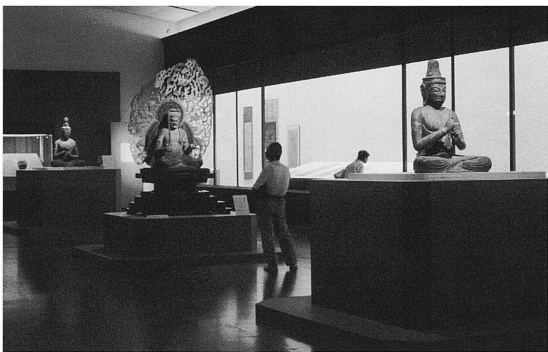
気持ちを昂ぶらせて展覧会へお邪魔してみると、展覧会場では様々な石山寺の来歴を示す作品群の中央に、本尊納入品の全容がわかるように懇切丁寧な解説を付して展示されていた。因みにこの展示室は私の好きな場所で、なにもかに邪魔されることなく心ゆくまで浸ることのできる空間のひとつである。たまたま会場で本展の担当者のお一人である岩田茂樹氏にお会いできたので、発見の経緯や歴史的意義について詳細な御意見を聴かせていただくことができたのは幸いであつた。ただその折、氏は今回の発見については一応の見解を示しましたが、今後もう少し熟慮したい点もあります

と話されていた。このことは研究者の常套的な言い訳である場合が多いが、普段からの氏の慎重さを知る私には、通り一遍の言い訳のように聞き流すにはいかならない響きがあつたように感じられた。

タイム・スケジュールの中で仕事をしなければならないことをいわば義務づけられている学芸員にとつて、展覧会はいつても何かを断念しなければならぬ。本尊の胎内からの飛鳥・白鳳期の金銅仏の発見および展示紹介は本展の意義を余りあるものとしていることは間違いないが、石山寺の創建に関わるであろう資料の発見はこれまでの「少なくとも私自身の「石山寺の（像）」に変更を迫る可能性があり、そうであるが故に確かな（像）」を結ぶまでじつと眼を凝らしていたい欲求にかられる。にもかかわらず、「かたち」にしなければ展覧会は成り立たないのである。邪推を交えるならば、そのあたりのことを岩田氏はそつと語られたのかもしれない。学芸員とはつくづく因果な商売であると思つた一瞬である。

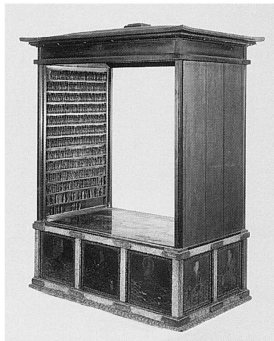


展覧会の会場入り口付近



展示風景

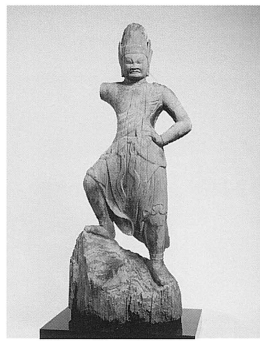




◎紫檀塗螺鈿厨子 千體寺



◎鳳凰文博 南法華寺



木造蔵王権現立像 当館

## 平安時代後期の仏像

木造大日如来坐像(西城戸町)、木造釈迦如来坐像(法隆寺)、木造菩薩半跏像、木造不動明王立像(以上個人)、◎木造増長天立像(称名寺)、◎木造増長天立像(法明寺)

## 鎌倉時代の仏像

◎木造如来坐像(興福寺)、木造如意輪観音坐像(当館)、木造弥勒菩薩立像(林小路町)、銅造不動明王立像(天ヶ瀬組)、◎木造十二神将立像(辰・未(室生寺)、木造愛染明王坐像、木造十一面観音立像(以上当館)、◎木造馬頭観音立像(浄瑠璃寺)、◎木造地藏菩薩立像(長命寺)

## 神仏習合の彫像

◎銅造蔵王権現立像(大峰山寺)、木造蔵王権現立像(当館)、◎木造大將軍神坐像(大將軍八神社)、木造男神坐像(観音寺)、◎木造八幡三神坐像(薬師寺)、木造伊豆山権現立像、木造男女神像(以上当館)

## 特集展示

### 「阿弥陀信仰の彫像」

12 / 25 本館

◎木造裸形阿弥陀如来立像、◎木造重源上人坐像、◎木造菩薩面(以上浄土寺)、◎木造紅玻璃阿弥陀如来坐像(当麻寺)、◎木造阿弥陀如来坐像(泉屋博物館)、◎木造阿弥陀如来坐像(東大寺)、木造地藏・龍樹菩薩坐像(当館)、木造宝冠阿弥陀如来坐像(安楽寿院)、木造阿弥陀如来坐像(当館)、木造阿弥陀如来立像、木造阿弥陀如来立像(以上個人)、木造阿弥陀如来坐像(金剛寺)、木造阿弥陀如来坐像(当館)、木造阿弥陀如来

坐像(西大寺)、木造阿弥陀如来及び両脇侍像(峰定寺)、木造裸形阿弥陀如来立像(当館)、木造阿弥陀如来立像(個人)、木造阿弥陀如来立像(当館)、◎銅造阿弥陀如来立像(善光寺)、鉄造阿弥陀如来立像(西法寺)

## 工芸

## 特集展示

### 「厨子」

11 / 26 12 / 25 西新館北

◎密観宝珠嵌装舍利厨子(般若寺)、◎宝篋印塔嵌装舍利厨子(当館)、密観宝珠嵌装舍利厨子(金剛山寺)、◎首懸駄都種子曼荼羅彩絵厨子(当館)、宝篋印塔嵌装舍利厨子(福田寺)、春日神鹿舍利厨子(当館)、◎五輪塔嵌装舍利厨子(不退寺)、◎四方殿舍利厨子(能満院)、◎山王曼荼羅彩絵舍利厨子(聖衆来迎寺)、◎大般若経厨子(当館)、◎黒漆厨子(清涼院)、◎阿耨曼荼羅彩絵厨子(当館)、普賢菩薩来迎図(長福寺)

## 特別陳列

### 「千體寺所蔵紫檀塗螺鈿厨子」

11 / 26 12 / 25 西新館北

紫檀塗螺鈿厨子、阿弥陀三尊像(以上千體寺)

## 考古

11 / 26 12 / 25 西新館北

蓮華文鬼瓦(奈良・奥山久米寺出土)(京都国立博物館)、蓮華文鬼瓦(奈良・山村磨寺出土)(個人)、鬼身文鬼瓦(奈良・薬師寺出土)(京都国立博物館)、鬼面文鬼瓦(奈良・中山瓦窯出土)(当館)、◎鬼面文鬼瓦(伝奈良・大安寺出土)(個人)、鬼面文鬼瓦(奈良・秋篠寺出土)(個人)、◎鳳凰文博(南法華寺)、◎石製九輪(奈良・山村磨寺出土)(円照寺)、◎栗原寺伏鉢(談山神社)、中国古瓦(かわら美術館)、◎佐井寺僧道薬墓出土品(当館)、◎青磁鉢(正暦寺)、◎鍍銀経箱(奈良・金峯山経塚出土)(金峯神社)、銅経筒(平治元年銘)、陶製経筒(愛媛・北条市出土)(以上当館)、◎朝熊山経塚遺物(三重・経ヶ峯経塚出土)(金剛証寺)、◎粉河経塚遺物(天治二年銘)、◎銅経筒・滑石外筒(保延七年銘)(以上当館)、◎藤原道長願経(奈良・金峯山経塚出土)(金峯神社)、紙本墨書法華経(奈良・粉河経塚出土)、紙本朱書法華経(伝大分県出土)(以上当館)、紙本朱墨交書法華経(和歌山・王子神社経塚出土)(王子神社)、◎銅板経(大分・長安寺経塚出土)(長安寺)、瓦経(福岡・飯盛山経塚出土)、青石経(愛媛・大日堂経塚出土)(以上当館)、経塚出土鏡(当館 個人)

## 特集展示

### 「薬師寺西塔出土塔本塑像とその周辺」

11 / 26 12 / 25 西新館北

◎薬師寺西塔出土塔本塑像断片、塑像人物頭部(奈良・本薬師寺出土)(以上薬師寺)、塑像菩薩頭部(奈良・定林寺出土)(奈良国立博物館)、塑像断片(奈良・川原寺裏山出土)(明日香村)、塑像断片(滋賀・雪野寺出土)(個人)

## 平常展

### 坂本コレクション

### 「中国古代青銅器」

12 / 25 本館

爵、觚、觶、長頸尊、觚形尊、罍、方彝、卣、甗、鼎、鬲、鬲簋、罍、豆、盤、匜、盥、鐘、鈃、扁壺、蒜頭壺、甗、鎮山炉、鎮子、鐃、罍子など

## 特別出陳

12 / 25 本館

◎薬師如来立像(唐招提寺金堂)

## 特別出陳

12 / 25 西新館北

◎薬師三尊像(薬師寺講堂)

◎国宝 ◎重要文化財

出陳品は、都合により一部変更する場合があります。

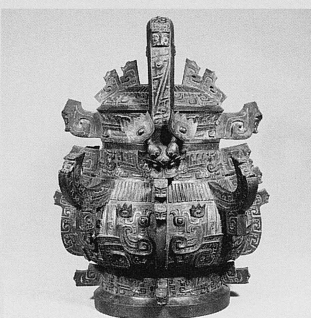
奈良博  
NEWS

坂本コレクション

「中国古代青銅器」  
の寄贈

このたび坂本五郎氏より中国古代の青銅器三八〇余点が奈良国立博物館に寄贈されました。当館では、本館の南に位置する第十四室と十五室をその専用展示室とし、九月七日から平常展示を開始しました。坂本氏は古美術商店「不言堂」の初代社長で、古美術品の蒐集家として著名です。同氏が情熱を傾け、半生を賭けて集めた今回の寄贈品は、中国の商（殷）時代から漢時代（紀元前十七〜紀元三世紀）までの青銅製容器や楽器が主体を占め、武器や車馬具、農工具、文具類なども含まれます。

た夏、商（殷）、周の三代を経て、紀元前三世紀（戦国時代後期）まで続きます。商・周時代の青銅容器は彝器とよばれ、世界の青銅器文化の中で最も発達したものと評価されています。商代の彝器は主に祖先神を祭る宗廟の器で、それは祭器であり、礼器でもありました。周代に入ると祖先祭祀が形骸化し、代わって諸侯、卿大夫、士という身分秩序の象徴として所有する礼器の数が重要視され、また儀式用の音楽を奏するために楽器も発達しました。



鳳凰文直（商末周初期 B.C.11〜B.C.10世紀）

中国の青銅器時代は紀元前一〇〇〇年ごろに始まり、歴史書に記される末周初期のように美術作品として優れたものも少なくありませんが、商時代前半の二里岡期（紀元前十七〜紀元前十五世紀）から、商時代後期（殷墟期）、周時代を通して秦漢時代に至るまでの青銅彝器の大部分の器種が含まれ、各種の文様も観察でき、中国古代青銅器を理解する上で格好の作品群といえます。また中国古代史の歴史資料としても見過ごすことができません。

特別陳列 重要文化財 千體寺所蔵紫檀塗螺鈿厨子 (11/26〜12/25)

奈良県大和郡山市の千體寺において、本尊の阿弥陀三尊像を安置している大形の厨子。木造黒漆塗で、四方に慳貪式の扉（取り外しのできる扉）をはめる珍しい形式を見せます。柱や基壇上面などには朱漆で木目を描いた「紫檀塗」が見られ、基壇には螺鈿の細片をびっしり埋め尽くした「微塵螺鈿」が見られます。現在残る作品の中では、このような技法が見られるもっとも古い作品です。基壇の羽目板には浄土宗の祖師十人が描かれています。また、随所に見える金銅金具には宝相華が彫刻されています。今回の展示は、この知られざる名品を初めて寺外で公開するもので、あわせて阿弥陀三尊像（鎌倉時代）も出陳されます。

特集展示 薬師寺西塔出土塔本塑像とその周辺 (11/26〜12/25)

薬師寺西塔の創建は東塔の建立時期の天平2年（730）とほぼ同じころと推定され、そこから出土した塑像の断片は、当時の塔本塑像の実態を知る上に貴重な資料です。これらの塑像は釈迦八相像の断片の一部とみられ、仏、菩薩、天部、神将、俗体や獣形、山岳などの多岐におよんでいます。当館には飛鳥地方や近江の古代寺院出土塑像の断片も所蔵や寄託されており、それらの遺品もあわせて展示し、白鳳から奈良時代の塔本塑像の実態に迫ります。

●公開講座●

- 10月26日（土）「正倉院宝物にみる神仙世界-天平人の桃源郷-」  
仏教美術資料研究センター長 喜晴 厚  
奈良大学教授 東野 治之
- 11月 2日（土）「正倉院宝物と新羅貿易」  
11月 3日（日）「宝物への視線-その時代性-」  
宮内庁正倉院事務所所長 櫻山 和民  
館長 鷺塚 泰光  
美術室長 中島 博  
龍門文庫理事 柳田 征司
- 11月 9日（土）「大仏造立と開眼会」  
12月 7日（土）「一遍聖絵-絵のなりたち-」  
12月21日（土）「龍門文庫の抄物」  
※13時30分から15時まで。講堂にて。  
聴講は無料。定員は各回200名の先着順。

●ギャラリートーク●

- 10月 2日（水）「絵図の楽しさ、おもしろさ」  
11月13日（水）「阿弥陀信仰の影像」  
11月30日（土）「一遍聖絵をあじわう」  
12月11日（水）「千體寺所蔵紫檀塗螺鈿厨子について」  
資料管理研究室長 西山 厚  
主任研究員 稲本 泰生  
研究員 谷口 耕生  
工芸室長 内藤 榮
- ※いずれも14時から、展示室にて。入館者の聴講自由。

●親と子の文化財教室 「奈良時代の歴史と美術」 受講者募集●

- 10月12日（土）「聖武天皇と光明皇后」  
11月23日（土）「正倉院の宝物」  
12月14日（土）「奈良時代の絵画」  
資料管理研究室長 西山 厚  
工芸室長 内藤 榮  
研究員 谷口 耕生
- ※小学5・6年生と中学生、その保護者を対象にした教室です。  
※はがきに、「親と子の文化財教室参加申込」と記入の上、氏名・住所・郵便番号・学校名・学年・電話番号・同伴する保護者の氏名・参加を希望される月日（いくつでもかまいません）を必ず記入して、教室までお申し込みください。  
（FAX可 0742-22-7221）  
※当館講堂において10時から12時までおこないます。

●ボランティアによる解説●

ボランティアによる解説を、開館日の10:00〜13:00、13:30〜16:30の時間帯に展示室でおこなっています。20名以上の団体の場合は、事前にご相談のうえ、ご予約をお願いします。  
ご予約・お問い合わせ先： 教室 宮田（電話0742-22-7008）

●展覧会日程●

	10 月	11 月	12 月
本 館	平常展（〜12/25）		
西 新 館	平常展（〜10/6） 休館（10/7〜10/25） 正倉院展（10/26〜11/11） 休館（11/12〜11/25）	平常展（11/26〜12/25） 龍門文庫（11/26〜12/23）	
東 新 館	西大寺古絵図は語る（〜10/6） 休館（10/7〜10/25） 正倉院展（10/26〜11/11） 休館（11/12〜11/25）	一遍聖絵（11/26〜12/23）	

# 展示品の 見どころ

## くわのきのげん かん 桑木阮咸

正倉院宝物  
長102.8cm

バンジョーを思わせる円形の胴を有する四絃の楽器。この形式の楽器は竹林七賢（中国南朝・晋時代の七人の高士）のひとり阮咸がこよなく愛したと伝えられているので、彼の名をとり阮咸と呼ばれている。正倉院宝庫には聖武天皇の遺愛品で『国家珍宝帳』に記載される螺鈿紫檀阮咸と、この一面のあわせて二面が伝わっている。中国・唐時代に流行したらしく、この時期の石窟の壁画などにしばしば阮咸を見ることができる。

桑木阮咸は蘇芳で染めたクワを主な材とし、一部にヤチダモ（もしくはシオジ）やシタンを用いている。捍撥は八花形に切った革を貼り、朱と丹で隈取りした八弁花を地文に描き、その上に松の木の下で囲碁をする三人の高士を彩絵している。彼らの傍らには投壺という遊戯具や酒器なども見える。彩色の上には密陀油をひいている。高士が愛したという阮咸にふさわしい意匠の捍撥絵といえよう。また、捍撥の上方左右に二個の小円形の革が貼られているが、近年の光学調査によって日月が描かれていることがわかった。

胴部の裏側に「東大寺」という刻銘があり、これによって東大寺で用いられたことがわかる。当時、寺院では伎楽など種々の楽舞が上演されたが、この阮咸も東大寺の寺院楽で用いられたものであろう。往時の華やかな寺院の催しをしのぶことができる。

（工芸室長 内藤 榮）



■開館時間 9時30分～17時、「正倉院展」会期中は9時～18時

（11月8日（金）までの毎週金曜日は19時まで。

11月1日（金）は平常展のみ17時まで）

※いずれも入館は閉館の30分前まで

■休館日 月曜日（ただし10月14日・12月23日は開館、10月15日（火）・

12月24日（火）は閉館。正倉院展会期中は無休）、12月26日（水）～1月3日（金）

■観覧料金

平常展		大人	大学・高校生	
	一般	420円	130円	
	団体	210円	70円	
正倉院展		大人	大学・高校生	中学・小学生
	一般	1,000円	700円	400円
	前売・団体	900円	600円	300円

\* 団体は責任者が引率する20名以上。


\* 正倉院展前売の券は、当館・近鉄、JR西日本、JR東海の主要駅・チケットぴあ・ファミリーマート（Pコード 468-193）・ローソン（Lコード 54910）で販売いたします。

\* 親と子のギャラリー・特別陳列・特集展示は、平常展料金でご覧いただけます。



〔交通案内〕近鉄奈良駅から徒歩15分、またはJR奈良駅・近鉄奈良駅からバスで「氷室神社・国立博物館」下車すぐ

『奈良国立博物館だより』は、1・4・7・10月に発行します。郵送をご希望の方は、何月号かを明記し、返信用封筒（90円切手貼付、宛名明記）を同封して、当館の企画室にお申し込みください。

 **奈良国立博物館**  
Nara National Museum